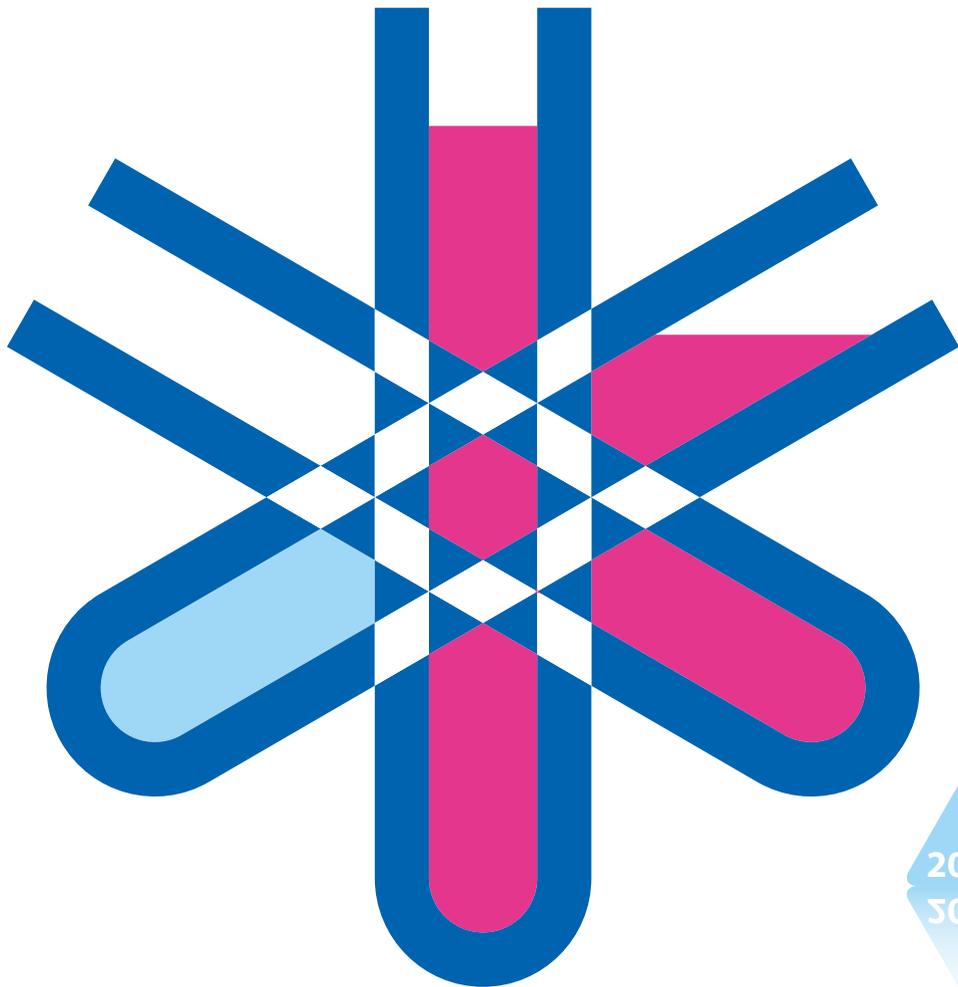


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和5年7月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果（令和5年4月～6月）	1
レジオネラ属菌の検査結果（令和4年度）	2
家庭用品検査結果（令和4年度）	4

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年6月）	6
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和5年6月）	7
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・種類同定検査結果（令和5年4月～6月）

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和5年4月から6月の3か月間の種類同定検査報告件数は、昆虫類3件（シロアリ目1件、ハエ目1件、ハチ目1件）でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等 〈相談月〉	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
自宅の風呂場、押し入れに虫が大量に這いまわっていた。 〈4月〉	 有翅虫、黒褐色、約4mm	ヤマトシロアリ (シロアリ目)	寒さには比較的強いが、乾燥には弱い。常に湿った木材や土中で生活する。加害箇所が巣を兼ねている。有翅虫の群飛は、同一地域で1ヶ月間位の幅があり、関東近郊は4～5月である。高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
一戸建て家屋前で多数の虫が飛んでいる。 〈5月〉	 成虫、灰褐色、約6mm	ヒメイエバエ (ハエ目)	小型のハエで、早春から発生する。成虫は、屋内に侵入し、輪舞する。幼虫は動植物性の腐敗物、動物の排泄物、生ゴミなどに発生する。日本全土に分布する。
駅エレベーター1階周辺でアリが大量に発生していた。 〈6月〉	 働きアリ、褐色、約2.5mm	アミメアリ (ハチ目)	女王アリを欠き、働きアリが産卵して働きアリに育つ。数万～数十万の働きアリが石下や倒木下に野営しながら長い列をつくって移動する。日本に広く分布する。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

レジオネラ属菌の検査結果（令和4年度）

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で四類感染症に分類されています。

レジオネラ症には肺炎型とポンティアック熱型があります。肺炎型は死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土埃などで運ばれて噴水などの水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水が誤って気道に入ったりすると感染する可能性があります。感染者から他の人への感染は報告例がありません。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふき取り検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。

令和4年度は、延べ31施設、146検体（水試料76、ふきとり試料70）のレジオネラ属菌検査を行いました。検査はLAMP法を用いた遺伝子検査と培養法の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、患者宅14、高齢者福祉施設10、公衆浴場1、医療機関4、スイミングスクール1、事業所1でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは6施設、10検体（水試料8、ふきとり試料2）で、培養法で菌が検出されたのは3施設、4検体（水試料3、ふきとり試料1）でした。培養法で菌が検出された4検体のうち3検体がLAMP法陽性、1検体がLAMP法陰性でした。LAMP法または培養法で菌が検出された検体の施設と検体の内訳、菌同定結果は表に示したとおりです。

このうち、環境から分離された菌株と患者から分離された菌株のパルスフィールドゲル電気泳動法による分子疫学的解析を実施した事例が1事例ありました（表中No.3）。No.3では患者喀痰由来の *Legionella pneumophila* SG1と公衆浴場の水検体由来株からの *L. pneumophila* SG1は一致しませんでした。

レジオネラ属菌が検出された施設は、保健所の指導により、消毒等の衛生対策を実施しています。

表 レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	施設種類	LAMP法陽性検体	培養法陽性検体と菌名
1	患者宅	居室 水槽	
2	高齢者福祉施設		2階個室浴槽 シャワー水(10cfu/100mL) (<i>L. pneumophila</i> SG 1)
3	公衆浴場	ジェットバス浴槽水	ジェットバス浴槽水(1600cfu/100mL) (<i>L. pneumophila</i> SG 1、血清群不明) ※
		内湯低温浴槽水	
		かけ湯	かけ湯(20cfu/100mL) (<i>L. pneumophila</i> SG 1、SG 5、血清群不明) ※
4	患者宅	屋外雨水タンク水 屋外雨水タンクシャワーふきとり	
5	患者宅	浴槽 給湯口ふきとり 浴槽水	浴槽 給湯口 ふきとり(<i>L. pneumophila</i> SG 1)
6	患者宅	浴槽水(追い炊き後)	
7	高齢者福祉施設	機械浴槽浴槽水	

※パルスフィールドゲル電気泳動法を実施

培養法単位: cfu/100mLは100mL当たりの菌数(cfu: colony forming unit)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

家庭用品検査結果（令和4年度）

家庭用品とは、衣料品や洗剤など私たちが日常生活で使用している生活用品のことをいいます。家庭用品は、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

令和4年度、健康福祉局生活衛生課が市内販売店で、58検体を購入して検査を行いました。その検体について、延べ292項目の検査を実施しました。検査の結果、規制基準を超えた検体はありませんでした（表1）。参考に、規制基準を示しました（表2）。

表1 令和4年度 家庭用品検査検体内訳及び検査結果

	検 体 数	違 反 検 体 数	検 査 項 目 数	検査項目内訳													
				ホルムアルデヒド* ₁	ホルムアルデヒド* ₂	有機水銀化合物	トリフェニル錫化合物	トリブチル錫化合物	水酸化ナトリウム 又は水酸化カリウム	塩化水素又は硫酸	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	デイルドリン	DTTB* ₃	アゾ化合物* ₄	容器試験* ₅
合計	58	0	292	44	6	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	216	8
繊維製品等																	
よだれ掛け	5		5	5													
中衣	7		7	7													
外衣	8		8	8													
下着	14		14	10	4												
くつ下	6		6	6													
帽子	3		7	3									2	2			
寝衣	2		4	4													
寝具	1		1	1													
えり飾り	2		72														72
タオル	2		72														72
革手袋	1		72														72
家庭用化学製品																	
家庭用洗剤	1		5						1								4
住宅用洗剤	1		5							1							4
家庭用エアゾル製品	1		3								1	1	1				
家庭用塗料/家庭用 エアゾル製品	1		6			1	1	1			1	1	1				
家庭用接着剤	1		3			1	1	1									
つけまつげ用接着剤	2		2		2												

*₁ 乳幼児（生後24か月以下）用

*₂ 乳幼児用以外

*₃ DTTBは4,6-ジクロル-7-(2,4,5-トリクロルフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾールの略称

*₄ アゾ化合物から生成する発がん性を有する又は疑いのある24種の特定芳香族アミンを測定

*₅ 漏水試験、落下試験、耐酸性・耐アルカリ性試験、圧縮変形試験

表2 家庭用品検査項目及び規制基準

検査項目	用途	検査対象	規制基準
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤	乳幼児(生後24か月以下)用繊維製品	吸光度差が0.05以下又は16 $\mu\text{g/g}$ 以下
		乳幼児用以外の繊維製品、つけまつげ等用接着剤	75 $\mu\text{g/g}$ 以下
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として1 $\mu\text{g/g}$ 以下
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、くつ墨、くつクリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として1 $\mu\text{g/g}$ 以下
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗浄剤	家庭用洗浄剤	アルカリの量として5%以下
塩化水素 硫酸	洗浄剤	住宅用洗浄剤	酸の量として10%以下
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	0.1%以下
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品、家庭用洗浄剤	0.1%以下
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下
DTTB	防虫加工剤	繊維製品	30 $\mu\text{g/g}$ 以下
アゾ化合物	染料	繊維製品、革製品	特定芳香族アミンとして30 $\mu\text{g/g}$ 以下
容器試験		家庭用・住宅用洗浄剤	各試験(漏水、落下、耐酸性・耐アルカリ性、圧縮変形)に適合する容器強度を有すること

【 理化学検査研究課 薬事・家庭用品担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年6月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和5年6月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和5年6月に追加・更新した主な記事は、10件でした。

掲載月日	内容
6月1日	保健統計データ集・標準化死亡率(SMR) 感染症に気をつけよう(6月号)
6月5日	熱中症情報(2023年6月5日)
6月12日	熱中症情報(2023年6月12日) 横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第2回)
6月13日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
6月19日	熱中症情報(2023年6月19日)
6月26日	熱中症情報(2023年6月26日)
6月27日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果 横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第3回)

2 記事紹介

保健統計データ集

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/hokenjoho/data.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/index.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年6月）

《今月のトピックス》

- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症も増加しており、注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、集団感染も含め、患者数が増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症は幅広い年齢層で患者が発生しています。
- ヘルパンギーナなど、子どもの感染症の報告が多くなっています。

◇ 全数把握の対象

＜6月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	51件	急性脳炎	1件
パラチフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
E型肝炎	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	2件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	37件

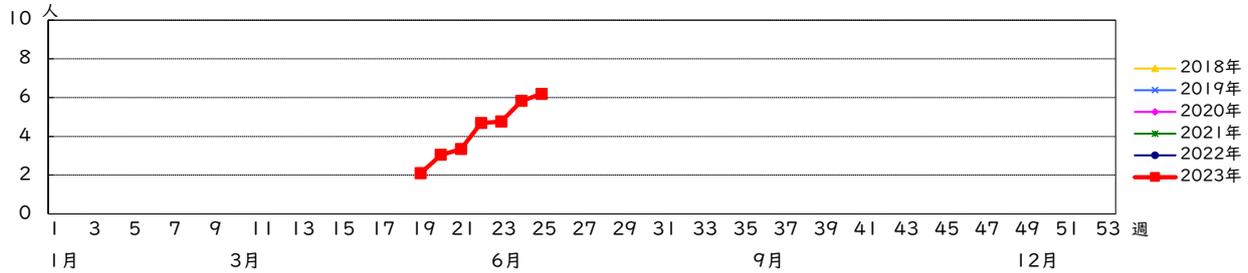
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清群O157が42件、O26が2件、O111が2件、Og5が1件、O103が1件、Og156が1件、O166が1件、O血清群不明が1件です。接触感染と推定される報告が35件、経口感染と推定される報告が6件、経口または接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が9件ありました。市内認定こども園での集団感染事例(二次感染含む)が38件含まれています。
(令和5年5月30日記者発表)
- 2 **パラチフス**:30歳代で、経口感染(国外)と推定される報告が1件です。
- 3 **E型肝炎**:20歳代～40歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 4 **レジオネラ症**:30歳代～80歳代で、水系感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 5 **アメーバ赤痢**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 6 **ウイルス性肝炎**:30歳代で、感染経路等不明です。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 8 **急性脳炎**:90歳代で、感染経路等不明です。
- 9 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:60歳代～90歳代で、いずれも血清群はG群、創傷感染と推定されています。
- 10 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代～60歳代で、性的接触(同性間・異性間1件、詳細不明1件)と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満(ワクチン接種歴4回1件、3回1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 12 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～70歳代(ワクチン接種歴4回3件、3回2件、2回1件、1回1件、無2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が8件ありました。
- 13 **水痘(入院例に限る)**:60～70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等不明です。
- 14 **梅毒**:20歳代～80歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期20件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、無症状病原体保有者7件です。性的接触による感染と推定される報告が33件(異性間26件、同性間3件、詳細不明4件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第21週	5月22日～ 5月28日
第22週	5月29日～ 6月 4日
第23週	6月 5日～ 6月11日
第24週	6月12日～ 6月18日
第25週	6月19日～ 6月25日

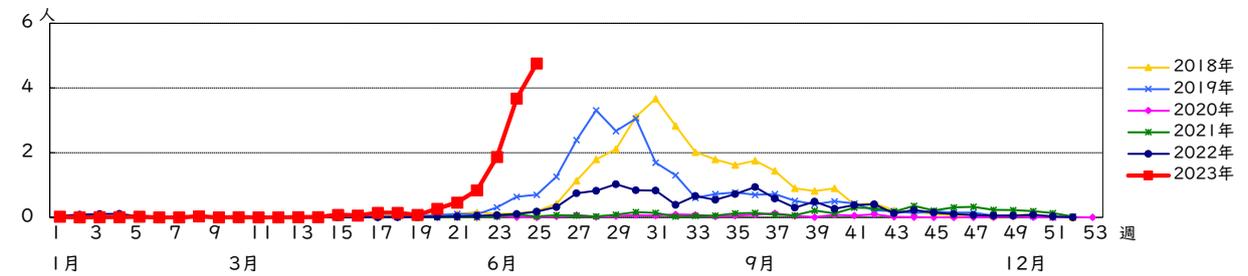
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。
第19週は2.10で、以降増加が続き、第23週4.76、第24週5.83、第25週6.19と推移しています。



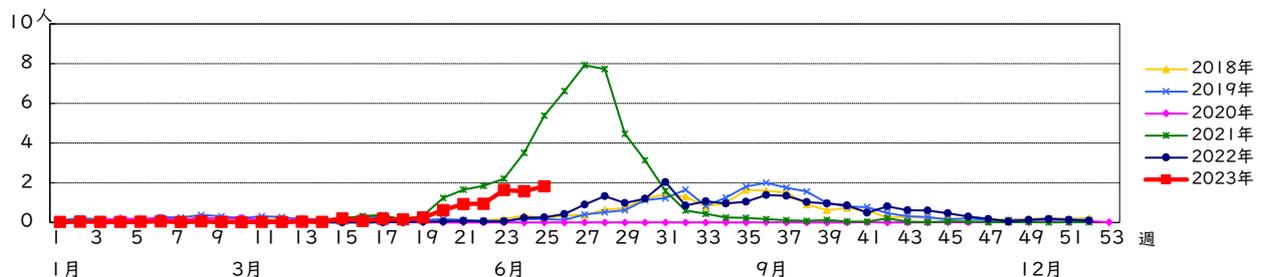
2 ヘルパンギーナ:

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第21週0.46、第22週0.84、第23週1.87、第24週3.67、第25週4.76と急増しています。



3 RSウイルス感染症:

2023年第19週(0.26)以降増加しはじめ、第20週0.62、第21週0.93、第22週0.94、第23週1.64、第24週1.57、第25週1.82と推移しています。



4 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:40件	女性:24件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 4件	女性:15件
尖圭コンジローマ	男性:11件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:19件	女性: 6件

5 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週	第25週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

6月期(2023年第21週～第25週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件、内科定点1件、基幹定点6件及び定点外医療機関3件でした。

ウイルス分離9株及び各種ウイルス遺伝子51件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2023年第21週～第25週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	急性 肝 炎 疑 い	低 月 齢 発 熱	手 足 口 病	発 疹	ヘル パン ギー ナ	敗 血 症 ・ 腸 炎 疑 い	菌 血 症 疑 い	口 内 炎	脳 症
コクサッキーウイルスA2型	- 2							- 1				
コクサッキーウイルスA4型	- 1	- 1						2 -				
アデノウイルス		- 2								- 1		
アデノウイルス1型				- 1								
アデノウイルス2型	1 1	1 1										
アデノウイルス41型				- 1								
ライノウイルス	- 5			- 1						- 1		
RSウイルス	- 3	- 6										
RSウイルス(サブグループA)		- 1										
ポカウイルス	- 2	- 1										
ヒトコロナウイルス*	- 1	- 2										
インフルエンザウイルスAH1pdm			1 -									
インフルエンザウイルスAH3			2 -									
パレコウイルス3型					- 2	- 1	- 1					
パラインフルエンザウイルス3型	- 4	1 5								- 1		
パラインフルエンザウイルス4型		- 2										
単純ヘルペスウイルス1型									1 -			
合計	1 19	2 21	3 -	- 3	- 2	- 1	- 1	2 1	1 -	- 3	- -	- -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

*ヒトコロナウイルス:HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

6月期(2023年第21週～第25週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌2件、パラチフス1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、サルモネラ属菌2件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌(NTM)3件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌13件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌2件、侵襲性肺炎球菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点から細菌遺伝子検索が2件、非定点からボレリア1件、保健所からレジオネラ属菌3件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、咽頭炎4件、胃腸炎・腸炎2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第21週～第25週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	腸管出血性大腸菌	2	O157:H7 VT2 (2)	
	パラチフス	1	<i>Salmonella</i> Paratyphi A (1)	
	基幹定点 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 10A (1)	
	サルモネラ属菌	2	<i>Salmonella</i> Newport (1)、 <i>Salmonella</i> Panama (1)	
非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	3	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (2)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	13	O157:H7 VT1 VT2 (2)、O157:H7 VT2 (2)、 O157:H- VT2 (1)、O26:H11 VT1 (2)、 O111:H- VT1 (2)、O103 Hg8 VT1 (1)、 Og156:H25 VT1 (1)、Og5:H- VT1 VT2 (1)、 O166:Hg15 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	5	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15B (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15C (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 24B (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> (2)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌 (2)	
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	基幹定点 血液培養 好気ボトル	細菌遺伝子	1	16S rRNA遺伝子 PCR陰性
	血液培養 嫌気ボトル	細菌遺伝子	1	16S rRNA遺伝子 PCR陰性
	非定点 血液	ボレリア	1	ライム病ボレリア PCR陰性、 回帰熱群ボレリアPCR陰性
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	3	培養陰性 (2)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	4	A群溶血性レンサ球菌 TUT 陽性 (3)、 培養陰性 (1)
	直腸ぬぐい	胃腸炎・腸炎	2	消化器系病原菌 陰性 (1)、 <i>Staphylococcus aureus</i> entA (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】